



# Let's TANQ便り

本質を問う学びへ 教室の学びを変えるためのニュースレター

## 今号の内容

教育委員会等との連携における授業研究の現状

国語科・数学科授業研究ワークショップの様子

授業研究ワークショップにおける研究授業の授業者の声



## 教科における探究的な学びのための授業研究ワークショップをさまざまなカタチで推進

教育委員会等との連携における授業研究は、3つのモデルで進めています。

### 【北海道教育委員会】

今年度、北海道教育委員会と本プロジェクトの連携は3年目となります。「授業研究セミナー」として行う本連携では、研究授業の計画段階である指導案の検討段階から、各教科で、**指導主事の主導のもと、現場の先生方とプロジェクトのメンバーが1つのチームを組み、授業研究を進めています。**今年度は、昨年度の国語、数学、化学、歴史総合、外国語の5科目に加え、地理総合のチームを新たに結成しました。各教科で授業研究を通した目標を設定し、生徒の探究的な学びの様相を見取り、早速活発な協議が進められています。

### 【大分県教育庁高校教育課】

大分県とは、昨年度に引き続き、「**指導教諭をリーダーとしたチームによる授業改善の推進事業**」と一部連動させ、国語、地歴、数学、理科、外国語、情報科と、今年度新たに連携する家庭科の7教科において、授業研究に取り組みます。これは、将来、**授業研究をリードする「伝道師」の育成**にあたるものです。

6月に新たなチームでのめ線合わせを行い、9月には、各教科で研究授業の対象となるクラスの授業を参観し、課題感の共有や授業改善に向けた協議を行いました。それとともに、各教科で県外の高校の授業などを参観され、チームでの授業改善に向けて動き始めました。

### 【長崎県文理探究科連絡協議会】

文理探究科を新設した5校からなる「**長崎県文理探究科連絡協議会**」と2年目の連携となります。この協議会の事務局が中心となり、昨年度のメンバーを中心に、各教科チームが結成されました。6月末に、県教委や教育センターの指導主事を含む全教科のチームメンバーが集い、め線合わせのワークショップ（左のツールキット参照）を実施し、**チームリーダーが中心となり、ボトムアップ的に授業研究の取り組みをスタート**させています。



上図のワークショップ動画以外にも、授業研究に活用できるツールキットをWebページで公開しています。

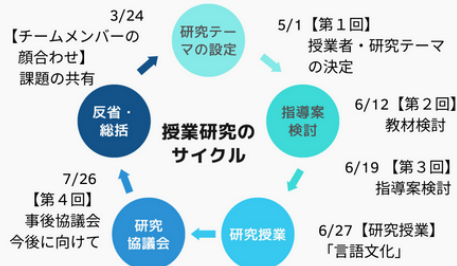
<https://g-tanq.jp/common>



# 国語科授業研究 ワークショップ

## 【授業づくりチームメンバー】

- ・公立高等学校教員 5名  
(福島県・東京都・長野県・徳島県・大分県)
- ・私立中高一貫校教員 2名  
(東京都)
- ・私立高等学校教員 1名  
(ロンドン)
- ・プロジェクト委員 2名



## 国語科授業づくりチームは、授業研究の1サイクルを終え、2チーム展開へ

昨年度実施した国語科授業づくりワークショップ（全3回）の参加者から、実際に授業研究を行いたいという声があがり、授業研究をスタートさせました。最初に、プロジェクト委員の堀内先生（教職員支援機構）より「まじめに楽しく、無理をせず、取り組んでいきたい」とお話しいただいたとおり、「言語文化」の研究授業に向け、オンラインやメール等で学習指導案の検討が進められました。

現在は、1回目の研究授業の成果や課題を踏まえ、2回目の研究授業に向けた検討を進めています。新たなメンバーも加わり、今度は、2チームに分かれてそれぞれのテーマを設定し相互に検討状況を共有しながら取り組んでいるところです。忙しい中でも、時間を創りだして、前向きに取り組まれています。

## 2年目となる数学科授業研究ワークショップ

数学科授業研究ワークショップは、各都道府県から集まった先生方が6つのチームに分かれ活動しています。開始当初は4チームでしたが、ニュースレター等をご覧になった先生方から参加したいという声を頂戴し、新たに2チームを編成しました。それぞれのチームで研究テーマを設定し、学習指導案の検討、研究授業、事後協議会を通した振り返りといった授業研究のサイクルを進めています。

また、今年度からは、並行して進めている「数学科リーダー向けワークショップ」の参加者を、各チームに配属し、アドバイザーとして活躍していただいています。その声を紹介します。

「授業研究ワークショップをきっかけにして、学校が自主的に進める研究授業について考えるようになりました。指導主事が引っぱるのではなく、学校が行う授業研究をサポートできるように、という視点をもって参加していますが、先生方にどのようにお伝えすればよいか、指導主事としての授業研究への関わり方が難しいところです。ここでの経験がすごく勉強になりますし、楽しく参加させていただいています。」

(指導主事・福井県)



## 授業研究ワークショップ 研究授業の授業者の声

研究授業の事後協議会後に、授業者の先生から、チームメンバーに届いたコメントです。

### <国語科教員・東京都>

これまでは一人で首をかきげながら何となく自分を納得させて授業をこなしてきましたが、さまざまな視点でご意見をいただくことにより、これまでと比べて、自分の課題も、持ち味も、明確になった気がします。評価の観点や基準をより明確にして、2学期以降の授業に取り入れたいと思います。

### <数学科教員・兵庫県>

今回の研究授業は、授業のねらいの設定や生徒の自力解決をうまく引き出して単元を貫く授業に迫るという点では課題が残りましたが、私自身、たくさんの学びがある機会となりました。

本校の授業は「例題の解説から演習」が主なスタイルで、生徒もよくわからないけど公式に当てはめ、解き方を覚えたら解けるという状況に、同僚の先生方と現状は良くないとわかりつつ、打開策に悩んでいました。

今回の取り組みを通して、プロジェクトの長尾先生や野島先生をはじめ、チームメンバーの先生方に背中を押してもらい、現状に一石を投じられたのではないかと思います。

当日の研究協議が終わったあとも、職員室では、本時の内容やそれぞれの授業スタイルについての議論が続いていました。現在では、生徒間の協議の時間を取るようにした、GeoGebraを生徒に触らせてみて最大最小を考えさせてみた、など、授業のねらいに合わせていろいろな手法を試したという話題も出て、お互いの授業を見合いました、という雰囲気も生まれました。

ここがスタートと思って、前向きな生徒がきちんと力をつけることができるよう研鑽を積んでいこうと思います。

